

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年03月31日

計画の名称	安芸太田町特環公共下水道（防災・安全）												
計画の期間	平成30年度～令和04年度（5年間）												
交付対象	安芸太田町												
計画の目標	安芸太田町では平成13年に横川浄化センターおよび筒賀水質管理センターが供用を開始し、以降上殿浄化センター、加計浄化センター、柴木浄化センターが建設され、平成23年に全ての整備計画が完了した。 これらの下水道施設の計画的な改築更新に寄与するため、ストックマネジメント計画を策定する。 また、本町の町防災マップ（ハザードマップ）の浸水想定区域内に整備されている浄化センターは3つ（筒賀水質管理センター、上殿浄化センター、加計浄化センター）ある。 この3つの浄化センターにおける対策浸水深や対策箇所の優先順位等を明らかにするための耐水化計画を策定し、その後、その計画内容に沿って順次耐水化を進める。												
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）	88	A	82	B	0	C	6	D	0	効果促進事業費の割合C / (A + B + C + D)	6.81	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）				定量的指標の現況値及び目標値		
	定量的指標の定義及び算定式				当初現況値	中間目標値	最終目標値
					H30当初	R2末	R4末
1	処理区域における計画策定率（ストックマネジメント計画） 処理区域における計画策定率（ストックマネジメント計画） ストックマネジメント計画策定済の処理区域数（箇所）/ストックマネジメント計画策定予定の処理区域数（全5箇所）				0%	60%	100%
2	浸水想定区域内における計画策定率（耐水化計画） 浸水想定区域内における計画策定率（耐水化計画） 耐水化計画策定済の浄化センター数/浸水想定区域内の浄化センター数（3浄化センター）				0%	100%	100%
3	浸水対策整備率（短期対策） 浸水対策整備率（短期対策） 浸水対策整備に取組んだ施設数/浸水対策が必要な施設数				0%	0%	33%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況			
												H30	H31	R02	R03	R04						
		一體的に実施することにより期待される効果											備考									
下水道事業	C07-001	下水道	一般	安芸太田町	直接	安芸太田町	-	-	下水道BCP策定業務	下水道BCPの策定	安芸太田町							6		-		
		耐水化計画のハード面とBCPのソフト面を一體的に実施することにより、より効果的に下水道機能の維持を行うことが可能となる。																				
													小計						6			
													合計						6			
				</																		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

安芸太田町で評価を実施

事後評価の実施時期

令和6年度

公表の方法

町ホームページ

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

各種計画の策定により、計画的な長寿命化及び耐水化工事の施工が可能となる。
浸水想定区域に整備された3つの処理場のうち1つの処理場の耐水化工事が完了している

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

耐水化計画のハード面とBCPのハード面を一体的に実施することでより効果的に下水道機能の維持を行うことが可能となる。

特記事項（今後の方針等）

次期整備計画により、耐水化計画に基づき施設の耐水化を進める。
今回策定した計画をもとに、関係各課とも連携し、町内の下水道事業の維持に努める。

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	処理区域における計画策定率	
	最終目標値	100%
2	浸水想定区域内における計画策定率	
	最終目標値	100%
3	浸水対策整備率	
	最終目標値	33%